

2025 年度 大学院入試 (10 月期) (発達心理学専攻・発達臨床心理学コース)

博士課程 (前期) 「専門科目」

(2024 年 10 月 5 日実施)

選考・判定方法 《専門科目》《英語》《口述試験》

専門科目 (200 点)、英語 (100 点) および口述試験 (4 段階評価) により評価する。

判定基準

専門科目: 100 点以上、英語: 50 点以上、口述試験: C 以上のいずれも満たすこと。

《専門科目》(200 点満点)

【1】

出題意図

臨床心理学に関する基礎的な知識を有しているかどうかを判定する。

正答例

- (1) Play はまず、スポーツをする、楽器を奏でる、役割を演じなどが一義的であり、これは決められたルールの中で行うものであるとされる。時に子どもによっては、Play は Work であると見なされる。一方、日本語の遊戯には、お遊戯、遊戯場など楽しいといった意味しかなく、この二つには大きな差異がある。
- (2) クラインはフロイトの自由連想法が子どものプレイの意味を読み解くことで、自由連想法に等値したものとして、プレイテクニックを創案した。これは子どもの心的世界を飛躍的に理解するものとなり、世界中で発展した。
- (3) 衝動やストレスを無意識下に押込むことが抑圧であり、日常用語的には我慢することである。これは抑圧に耐えるだけの自我の機能が必要である。フロイトの精神分析は抑圧の分析、神経症が中心であった。その一方、乳幼児にはその自我の機能が脆弱な為に、それは外界にすぐに投影同一化されることである。例えば、乳児には当初、空腹に耐えることはできずに、すぐに大声で泣くなどが実例である。クラインは子どもの精神分析で、投影同一化を見出し、これを精神分析の俎板に載せ、より重篤な精神疾患の精神分析を可能にした。

【2】

出題意図

臨床心理学に関する基礎的な知識を有しているかどうかを判定する。

正答例

- (1) A4 判の画用紙、黒のサインペン、クレヨン (色鉛筆、クーピー) を用いる。テスターがクライアントの前で、テスターが手書きで描く。描いてもらうもの (川、山、田、道、家、木、人、花、

動物、石、その他)を順番に言っていく。

- (2) 枠にはクライアントの内界の自由な表出を保護するとともに、強いるという両面性がある。したがって、検査者が枠を描くことによって、検査者によって保護されているとクライアントが感じやすいというメリットと同時に検査者によって強いられていると感じやすいデメリットが生じる。
- (3) 描画を2人で眺め、検査者が疑問に思う点について確認する。あまり侵襲的にならないように気をつける。
- (4) 全体から受ける印象を重視する。風景が構成されていくプロセスに注目する必要がある。
- (5) 例えば、ロールシャッハ・テストと比較すると、クライアントの病態を正確に把握するためには、ロールシャッハ・テストの方が優れているが、心理療法の中で継続的に実施して、クライアントの変化を把握し、その変化についてクライアントと話し合う材料として用いるには風景構成法の方が適していると考えられる。

【3】

出題意図

発達臨床心理学に関する基礎的な知識を有しているかどうかを判定する。

正答例

発達障害の支援を行う際には、問題の原因を直接的な因果関係ではなく、包括的な視点で捉えて支援を行うことが重要になる。発達障害を抱える子どもとその親の支援においては、それぞれの問題について、生物学的な要因の影響の可能性と、置かれている社会的環境の検討やリソースの有無と言った社会的な要因と心理的要因のそれぞれにおいて適切なアセスメントを行い、問題をさまざまな視点から捉え、治療や支援を検討することが重要となる。

生物学的要因としては、障害の程度、身体／精神疾患の有無（てんかん、うつ、視聴覚障害など）、遺伝的素因、薬の影響、外傷などについて理解する必要がある、その支援においての選択には薬物療法、処置、手術、リハビリテーション（主に病院、クリニック）がある。

社会的要因としては、不適切な養育、虐待の有無、DVの存在、経済的な状況、若年妊娠、文化、サポート資源の不足、学校や地域での孤立などを考慮する必要がある、子どもと親の置かれている環境や社会資源の確認の必要性を理解し、適切な社会資源につなげる。（病院、保健所、児童相談所、区役所など）支援が求められる。

心理的要因では、主に感情、行動、認知、ストレス、対処行動、信念などの個人的な要因を検討する必要がある、その際には発達障害特有の思考、行動に対する心理学的支援、治療教育、心理療法、心理教育、またカウンセリング、ピアサポートの提供（病院、教育相談所、各種の発達相談センター）といった支援が中心となる。

こうした生物社会心理モデルを考慮しないことの問題点として、子どもの投薬の影響、聴覚（補聴器、聞こえの問題）、文化（言語の問題）などを理解しないで心理検査等を行ってしまうなどの問題から、子どもの発達の正しい能力を測れなくなったり、子どもの身体疾患を考慮せず心理的支援のみ続け

ることで、重大な病気の見落としが起こることなどが挙げられる。親の貧困や DV や、家族の介護など他の要因や家庭環境やソーシャルサポートの有無を考慮せず、子どもの療育やカウンセリングを進めることは、子どもの心身の安全を守ることができず本来の意味での支援を行うことができない。すでに主治医などがある精神疾患などでは、医療分野等の連携が必要であり、親との連携、子どもの心理療法などの影響についても考える必要がある。また疾患や家族状況などにより各分野の専門職（医師、心理士、教員、保育士など）の各分野での専門家との連携も重要になることもある。

【4】

出題意図

発達臨床心理学に関する基礎的な知識を有しているかどうかを判定する。

正答例

問題行動の機能には、1) 要求 2) 注目 3) 逃避 4) 感覚(自己刺激) の4つがあります。

「要求」とは何か欲しくて行う行動のことです。おもちゃや食べ物を要求する場合もありますし、遊ぶこと・取り組んでいることを要求する場合もあります。

三項随伴性（A 弁別刺激—B 行動—C 結果）の枠組みに沿って、具体的な行動の例を挙げると、A) 欲しいおもちゃのあるおもちゃ売り場で B) その場で泣きさけび動かないでいると、C) おもちゃを買ってもらえた場合、その場で泣き叫び動かないという行動は、要求の機能を持っていると分析することができます。

「注目」とは、自分を見て欲しくて行う行動のことです。褒めてもらいたい、笑いかけて欲しいという場合もありますが、叱られたい・笑ってもらいたいなどの欲求を持っている場合もあります。

三項随伴性（A 弁別刺激—B 行動—C 結果）の枠組みに沿って、具体的な行動の例を挙げると、A) 誰にも関心を寄せてもらえない場面で、B) みんなの前で大騒ぎをしたころ、C) クラスメイトから注目を浴びたという場合、みんなの前で大騒ぎをする行動は、注目の機能を持っています。

「逃避」とは、何かをしたくなくて行う行動のことです。（人を叩いたり叫んだりすることもある、貝のように動かなくなる・反応なくなることもあります。）

三項随伴性（A 弁別刺激—B 行動—C 結果）の枠組みに沿って、具体的な行動の例を挙げると、A) 苦手な科目の問題を解かなければならない場面で B) 問題の書かれたプリントをくしゃくしゃに丸めると、C) 先生に叱られると同時に、結果的にその問題を解かないまま授業が終わる（問題を解かずに済む）場合、問題の書かれたプリントをくしゃくしゃに丸めるという行動は「逃避」の機能を持っています。

「感覚(自己刺激)」とはその行為自体に感覚的な快感が生じている行動です。ASD 児では手をひらひらと顔の前で動かしたり、跳びはねるなど感覚刺激を楽しむことが多いと言われています。

三項随伴性（A 弁別刺激—B 行動—C 結果）の枠組みに沿って、具体的な行動の例を挙げると、A) 何もすることがない退屈な場面で、B) 手をひらひらと顔の前で動かし続け、C) その行動から、身体に感覚的な快感が生じている場合は、その行動は「感覚(自己刺激)」の機能を持つと分析されます。